

道徳における、生徒による自己評価

活用マニュアル（試案）

生徒による自己評価 Q&A①

ステップ1 「尺度評価」

ステップ2 「分析表への入力」

生徒による自己評価 Q&A②

ステップ3

「分析表の読み取り方」

ステップ4 「発展的活用」



道徳の生徒による自己評価 Q&A①

道徳の評価は何を基準に付けたらいいのですか？



道徳は良さを認め、励ます評価であるとともに、「個人内評価」という、「他人と比べない評価にする」ことになりました。

そこで、生徒自身に自己を振り返って評価をさせ、それを参考にその生徒の学びを教師が見取ることを考案しました。

参考：学習指導要領一部改正での見解

- ・他の生徒との比較による相対評価ではなく、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・他の生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 道徳編」（平成26年度版） p.109

具体的に「生徒による自己評価」ってどうするんですか？



道徳の授業の終末で、生徒に簡単な五つの項目について「5」～「1」の尺度で自己評価させます。また尺度評価と同時に文章での振り返りも行わせ、数値では割り切れない心の部分とも向き合わせます。それらを表計算ソフトの「道徳自己評価分析表」に記録・活用することで、生徒理解の深化と、道徳の指導力向上の役に立ちます！

※「道徳自己評価分析表」やワークシートの例は「京都市総合教材ポータルサイト」の「総合教育センター研究課」ページから入手できます

ステップ1 「尺度評価」

まず、図1のように、道徳ワークシートの最後で尺度評価をします。五つの項目は、以下の意味をもちます。（2016年度に改訂予定）

- ①共感・感動することがあったか
→ 道徳的心情への響き
- ②深く考えることができたか
→ 道徳的価値理解の度合い
- ③自分のこれからの考え方に影響はあったか
→ 道徳的価値の自分との関わり
- ④考えたことを大切にしていこうと思えたか
→ 道徳的価値実現への意欲
- ⑤教材資料は心に響いたか
→ 教材の活用の参考値

図1 道徳ワークシートモデル

拡大

図2 道徳ワークシート 振り返り発問モデル

尺度評価の部分

記述での振り返り

ステップ2 「分析表への入力」

次に、生徒の行った尺度評価を「道徳自己評価分析表」に入力，記録保存します。数値を入力した段階で「5」が青，「4」は白，「3」が黄，「2」がピンク，「1」は赤と色がつくようになっています。

図3 自己評価分析表の入力例

	実 施 日		4月1日				
	内容項目		1-(1)節度ある生活				
	教材・資料形態		読み物				
	教材名		教材①				
生徒番号	生徒氏名	共感・感動	深く考える	これからに影響	考えを大切	教材・資料	クラス平均
1		5	4	3	2	1	
2							

道徳の生徒による自己評価 Q&A②

え？数値で生徒の学びを評価するんですか？



いえ、あくまで生徒による自己評価は、生徒の学習活動なので、そのまま成績化なんてしません。数値は教師が生徒の豊かな学びができた時機を探る、参考資料にするためのものです。また、優劣を付ける評価ではないので、生徒は正直に自分の心の中の学びを評価したらいいのです。

参考：学習指導要領一部改正での見解

・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。（下線は筆者による）

「第3章特別の教科道徳」の第3の(4)

でも、毎回の入力って大変じゃないんですか？



尺度の入力自体の手間は簡単なもので、名列順に並んでいれば、一クラス5分ほどで入力ができます。
しかも、その記録からは以下のことが読み取れるのです。

- ①授業ごとの生徒一人一人の受け止めと変遷
- ②クラス単位での授業の受け止めと授業設計の改善点
- ③その道徳教材の評価参考点と年間計画への反映点

また、入力しながら即時的に生徒の様子が把握できるようになっているので、授業者自らが入力するのがお勧めです！



ステップ3「分析表の読み取り方」

生徒の行った尺度評価の入力モデルから、それぞれの項目について読み取り方を提案します。



①授業ごとの生徒一人一人の受け止めと変遷

その道徳の授業で生徒が受け取った学びを探ります。ここで生徒が付けた「1」や「5」という数値にではなく、その数値を付けた意味に注目します。なぜなら、道徳に対する期待や目標が高ければ、学びに対する自己評価の数値は低くなりますが、学びとしては高い水準であったりするからです。

→文言による評価につなげる方法はステップ4で解説

図4 自己評価分析表の入力モデル

	組	生徒 番号	実 施 日 内容項目 教材、資料形態 教材名	① 4月14日 C-(15)集団生活の充実							② 4月21日 C-(10)公德心							③ 4月28日 B-(8)友情、信頼							④ 5月12日 A-(4)克己と強い意志						
				読み物 教材①							読み物 教材②							読み物 教材③							読み物と映像 教材④						
				共 感・ 感 動	深 く 考 え る	こ れ か ら に 影 響	考 え を 大 切	教 材・ 資 料	合 計	ク ラ ス 平 均	共 感・ 感 動	深 く 考 え る	こ れ か ら に 影 響	考 え を 大 切	教 材・ 資 料	合 計	ク ラ ス 平 均	共 感・ 感 動	深 く 考 え る	こ れ か ら に 影 響	考 え を 大 切	教 材・ 資 料	合 計	ク ラ ス 平 均	共 感・ 感 動	自 分 を 振 り 返 り	新 た な 発 見	資 料	合 計	ク ラ ス 平 均	
				生徒氏名																											
1		1		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20	2.7
		2		4	4	4	4	4	20		5	5	5	5	5	25									5	4	5	5	5	24	
		3		4	5	5	4	4	22			4	4	5	22		4	4	4	4	4	20		5	5	5	5	5	25		
		4		5	5	5	4	4	23		4	4	4	4	20		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		
		5		4	4	4	4	4	20		5	5	5	5	5	25		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20	
		6		1	1	3	2	4	11	3.99	3	3	3	3	3	15	4.10	4	4	4	4	4	20	4.12	5	5	5	5	5	25	
		7		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20									3	3	3	3	3	12	
		8		3	3	3	3	3	15		5	5	5	3	5	23		4	4	5	4	4	21		5	5	5	5	5	25	
		9		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15								
		10		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15		2	3	3	3	3	14	
2		1																												4.22	
		2																													
		3		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5		25
		4		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3	15		3	3	3	3	3		15
		5		4	5	4	4	4	21		5	5	5	5	5	25		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4		20
		6		5	5	4	3	5	22	4.34	5	5	5	5	5	25	4.46	2	1	1	3	4	11	4.21	3	2	3	3	3		14
		7																							5	5	5	5	5		25
		8		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5		25
		9		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4	20		4	4	4	4	4		20
		10		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5	25		5	5	5	5	5		25
1組平均				4.00	4.06	4.14	3.81	3.94	19.94	3.99	4.18	4.21	4.06	4.06	4.29	20.79	4.16	4.14	4.14	4.10	4.10	4.14	20.62	4.12	4.12	4.12	4.41	4.38	4.32	21.35	4.27
2組平均				4.00	4.06	4.02	4.29	4.38	21.68	4.34	4.50	4.53	4.50	4.29	4.50	22.32	4.46	4.18	4.06	4.21	4.24	4.33	21.03	4.21	4.08	4.17	4.25	4.33	4.28	21.11	4.22
学年平均				4.00	4.06	4.08	4.06	4.17	20.81	4.18	4.39	4.36	4.25	4.20	4.40	21.55	4.30	4.18	4.11	4.18	4.22	4.22	20.90	4.18	4.16	4.20	4.33	4.41	4.34	21.37	4.27

②クラス単位での授業の受け止めと授業設計の改善点

その道徳の授業で教師が行った授業設計を再考する材料になります。それぞれどの項目のねらいが不十分であったか、またクラスの受け止めの傾向なども見えてきます。

③その道徳教材の評価参考点と年間計画への反映点

生徒の自己評価を集計し、全体としての受け止めを年間の振り返りに利用して、次年度の年間計画立案の参考にします。→ステップ4へ

ステップ4「発展的活用」

生徒による自己評価を活用した文言による評価と、年間指導計画への反映を提案します。



図5 生徒による記述例

発問④ 今回の授業を終えて。

	とても	ふつう	ぜんぜん		
① 共感・感動することがあったか	5	4	3	2	1
② 深く考えることができたか	5	4	3	2	1
③ 自分のこれからの考え方に影響はあったか	5	4	3	2	1
④ 考えたことを大切にしていこうと思えたか	5	4	3	2	1
⑤ 教材資料は心に響いたか	5	4	3	2	1

今日の授業で（国際理解）について考えたことを書きましょう。

貴戸さんの行動はすごいなあと思ったけど、なかなか自分には真似できないと感じた。でも、こんな戦場でがんばる大変な生き方が得か、損かって聞かれて、最初は損だと思ったけど、いろんなものを受け取っている貴戸さんは絶対損してないと思うし、それなら、こういう生き方も悪くないんだって気づくことができた。

国際理解についての授業で、新たに世界の人々のために貢献する生き方も多くのものを受け取ることができることに気づき、強い影響を受けました。今の自分の考えにないことも積極的に理解しようという態度で授業に取り組みました。

文言による評価モデル

分析表からその生徒の豊かな学びができた授業に目星をつけ、保存したワークシートを確認します。その中の記述の中で、その生徒が大切にしたいことを取り上げ、励ます評価を行います！

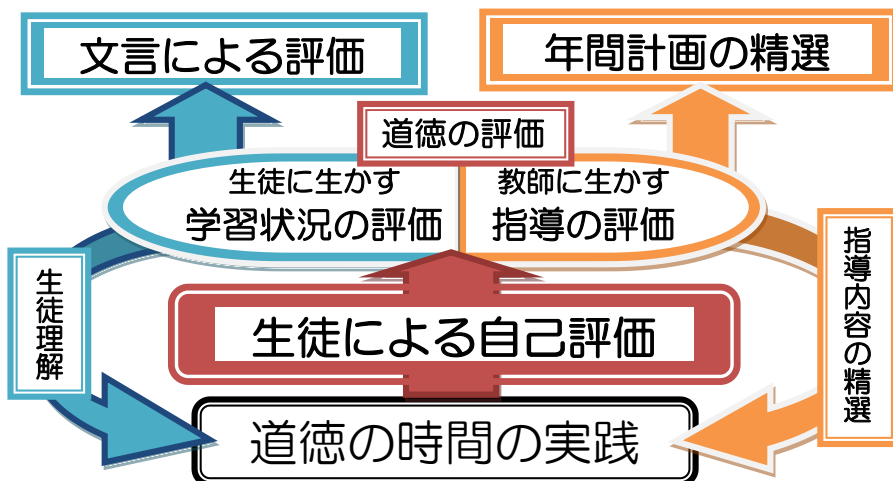
図6 道徳自己評価分析表からの年間まとめモデル

平成〇年度 道徳分析集計表（〇中学校 〇年）						
実施数	実施日	内容項目	教材名	教材の種類	指導案提案者	学年平均
1	4月14日	C-(15)集団生活の充実	教材①	読み物	A先生	4.18
2	4月21日	C-(10)公德心	教材②	読み物	B先生	4.30
3	4月28日	B-(8)友情、信頼	教材③	読み物	C先生	4.18
4	5月12日	A-(4)克己と強い意志	教材④	読み物と映像	D先生	4.27
5						

次年度への反映

一覧として別シートに反映されたものを確認し、より良い道徳教材・授業が提供できる資料とします！

図7 道徳の「生徒による自己評価」を軸とした運用モデル



PDCAのサイクルを意識した継続・発展する道徳のシステムが道徳教育の向上につながります！

システムの確立

<発行> 京都市教育委員会 研究課(京都市下京区河原町通松原上る二丁目富永町344 番地 京都市総合教育センター内 TEL 075-371-2705)

<Web サイト>京都市総合教材ポータルサイトの「研究課」ページより<出典>平成27 年度 京都市総合教育センター 研究紀要 NO.579

中学校道徳における、生徒による自己評価の有効な活用と分析(1 年次)-生徒の評価と教材開発・選定・授業手法・指導力向上への反映-中山芳明